

# あらゆる角度から総合的に審査

講評

機械工業デザイン賞の審査委員会は関係省庁、大学、各工業団体の権威者で構成される。審査委員会には機械技術・デザインの専門家5人が専門審査委員として参加しており、現物審査の評価を審査委員会に報告し、それを踏まえ最終審査を行う。審査委員が今回の現物審査を通じて感じたポイントを紹介する。



専門審査委員  
東京芸術大学教授

尾登 誠一

## 「カ・カタ・カタチ」の方法論

イン賞は①企画力・社会性②機能・品質③操作・安全性④造形処理を評価視点とし、現場でのデモンストレーション審査を行うという点で、真に厳正である。ここで前述の三段階方法論に照らし、四つの評価視点を再解釈してみよう。まず①は、カという本質を示す

のコアコンピタンス、つまりカタそのものと位置づけられる。そして③および④は、総合的な企業解答が具体的なカタチとして、製品デザインに収斂・反映されているかということになる。すなわち、現物審査という製品の現象目視と体験

に対する総合評価といえなくもない。現場のマシンは如実に本性を語る。おしなべて、テクノロジーというカタの優秀さは理解されても、これを広く市場や社会に認知させるカタチへの創出にいま

一步感が残るのはなぜなのだろうか。技術の優秀さ



専門審査委員  
日本工業大学教授  
工業技術博物館長

松野 建一

## 新興工業国の市場拡大にも

わが国のテレビメーカーが現在大苦戦を強いられている。低価格競争に耐えられないのが主な理由だが、性能・品質の高い製品なら必ず売れるはずと、画質などを良くすることにこだわ

に、工作機械メーカーなどでは、ユーザーの状況に応じた適切な性能・機能・品質・適切な価格に抑えた製品にも力を入れ始めた。試乗した結果、若者の近代農業指向を促進する効果も

設計者が検討した成果の応募もあり、新設の施設はこうあるべきだと思った。今回非常に残念に思ったことは、昨年からあった中堅・中小企業が開発した

他のデザイン表彰と同様に、外観の造形処理や色彩が主対象だと誤解している向きもあると思われるが、本賞では企画力・社会性、機能・品質、操作・安全性も含めた、総合的デザインを審査するのがそれらと違う大きな特徴である。次回に多種多様な応募があることを大いに期待している。



専門審査委員  
元電子技術総合研究所長

富山 朔太郎

## ショートカットの落とし穴

たツールとは別のものを差し替えて、動作を装置の上で見たりするものがある。チェックが終わって元のルーチンに復帰する手順を容易にするために、機械の設計者は配慮を強いられる。IC装置のソフトは汎用のパソコンソフトのよう

に、気ままな割り込みを予想していない。あらかじめ何のために中断するか、規定する必要がある。その手順を想定した上で余分な手続きに入らないように、操作者をガイドする。操作者となり作業が袋小路に入る可能性も生じるのである。IC装置の制御ソフトの製作にパソコンの基本ソフト(OS)並みの手間がかかる。操作者に手早くソフトの全体構成を悟らせる手段が必要となるが、これは切迫的なものではない。操作者純なものでさえ意外な難題である。

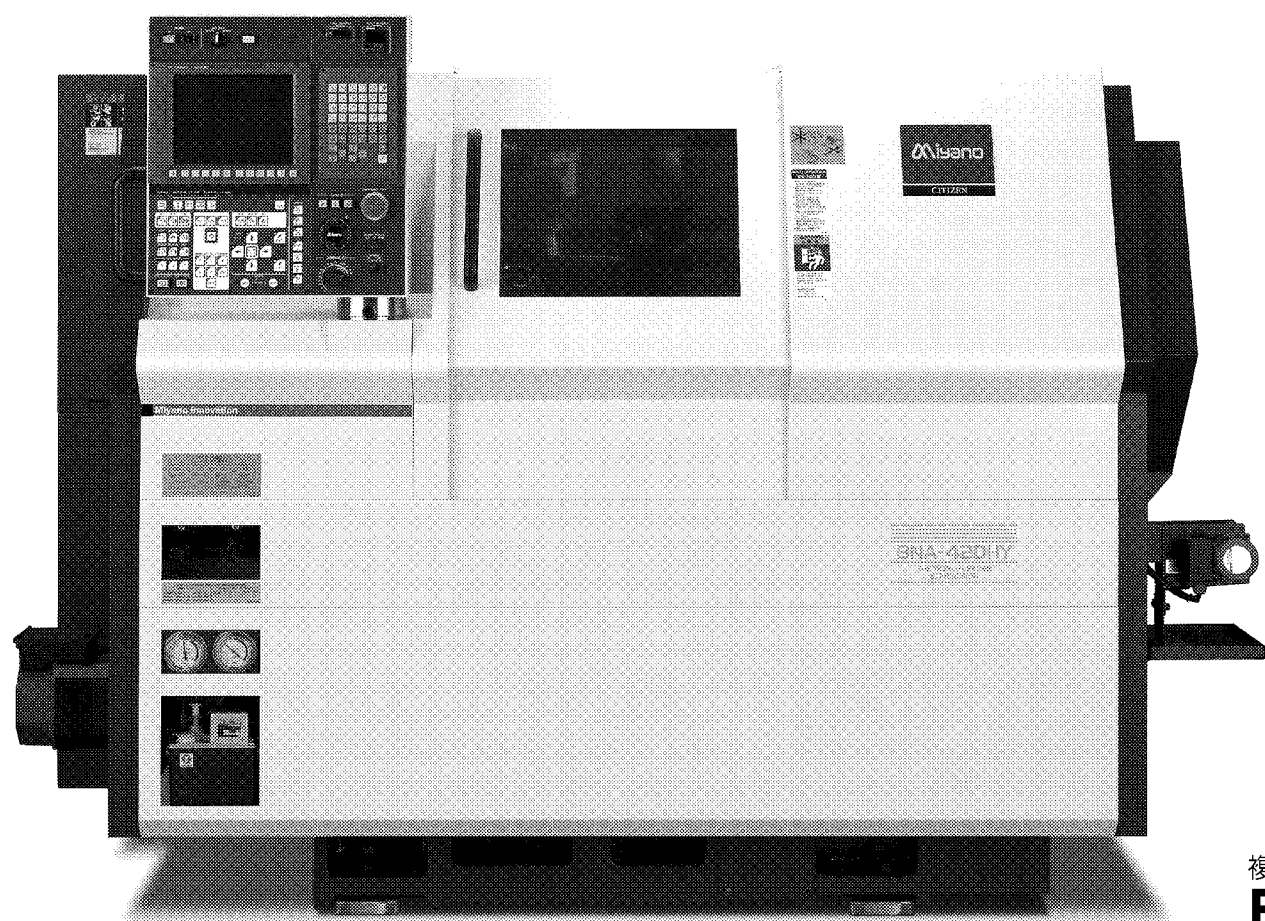
既に工作機械とロボットは、ソフトウェアは当たり前となり、人が随時ラインの中間に入り込むことを想定した、柔軟な構成が脚光を浴びている。その際の注意は、まず機械が人と接触しない手順に払われるが、人は横着な上に傲慢だから、機械に対して課された注意義務を軽々とオーバーライドしてしまうに違いない。

昔、小説家のアシモフはヒトとロボットの共存に關してロボット側に「三原則」を課する必要を説いたが、人工知能の発達とともに現場ではいづれ機械側からヒトに予想外の禁制をつきつけられるのではない

Miyano

Miyano Innovation Line

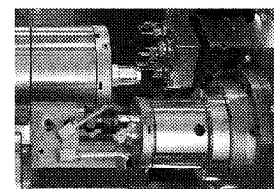
## 「コンパクト+高機能を実現したニュースタンド」



30%  
DOWN

### 省スペース

コンパクト設計により、同機能の当社従来機に比べ約30%の省スペース化を実現。床単位面積あたりの生産効率が向上、優れたコストパフォーマンスを発揮します。



### 高機能

1つのポジションに複数のツールが取り付け可能なY軸付メインタレットと、コンパクトな6ステーションサブタレットの組み合わせにより、複雑な加工も難なくこなします。



### 使いやすさ

新操作盤により各種加工支援画面をワンタッチで呼び出すことができ、作業効率が大幅に向上しました。また、機械上部まで開く開口部の広いドアは、ツール交換等の作業性に配慮、視認性も向上しています。

複合加工型NC自動旋盤  
**BNA-42DHY**

Cincom Miyano  
広がる未来—「進化」と「革新」